

令和3年度 はあと平針事業報告書

1. 事業概要

障害者総合支援法のもと、利用者に対して通所によるサービス提供を原則とし、個々のニーズや障がい特性に応じた個別支援プログラムを作成し、各種余暇活動や生産活動の取り組みを通じ日々の生活リズムの安定を図り、心身の健康を維持して生きがいを見つけていけるような支援を目指した。また、利用者が安心・安全に過ごせるよう、新たに職員のPCR検査を継続的に実施する等の新型コロナウイルス対策を講じた。

2. 事業所運営

1) 施設整備・設備

- ・老朽化した各扉を修繕した。(玄関、事務所、第一作業室)
- ・事業所内に手すりを設置した。
- ・新たに公用車を1台リース契約した。(1台廃棄処分にした)
- ・2階の出入り口にインターホンを設置した。
- ・利用者のロッカーを3台買い替えた。
- ・老朽化した活動室の椅子を買い替えた。

2) 職員構成

(令和4年3月31日 現在)

管理者 (みーる平針管理者兼務)	サービス管理責任者	生活支援員	事務員	嘱託医	看護師	計
(1)	1	5 (6)	1	(1)	(1)	7 (9)

※ () 内は、非常勤職員の外数である。

3) 会議

会議名	内容	運営方法	構成
法人運営会議	・各事業所の情報の共有と法人運営課題についての議論を目的とした会議を行った。	毎月1回	理事長 常務理事 各事業所の 管理者
職員会議	・次月の業務及び支援・運営全般について連絡協議した。	毎月1回	はあと 全職員
支援会議	・支援全般に関することについて協議した。	1月・3月	はあと 支援員

ケース会議	・利用者の支援上の諸問題（緊急対応）に対する検討を行なった。	毎日の打ち合わせ時に必要に応じ行なった。	はあと 全職員
	・半期のモニタリングを行った。 ・半期のモニタリングを行った。	毎年 8 月 毎年 2 月	
虐待防止及び身体拘束等適正化委員会	・身体拘束等の適正化のルールについて確認した。 ・虐待防止職員セルフチェックを実施した。 ・虐待防止及び身体拘束等の適正化のための指針を策定した。	毎年 6 月	管理者 サビ管 支援員 1 名
ハラスメント防止委員会	・ハラスメントの概要やセルフチェックについて確認した。	毎年 7 月	管理者 サビ管 支援員 1 名
感染症対策会議	・BCP（業務継続計画）について確認した。	毎月 7 月	はあと 全職員

4) 職員研修

職員がそれぞれの職務遂行に必要な知識・技術を習得するために、福祉関係団体の主催する研修に積極的に参加した。参加実績は下記のとおりである。さらに、若杉作業所との合同研修として、虐待防止、身体拘束等適正化、感染防止をテーマに行ない、当事業所より職員全員（非常勤職員を除く）が参加した。

月	参加者	研修名	主催	場所
6	サビ管	強度行動障害者支援者養成研修(基礎)	名古屋市	昭和区
	支援員	権利擁護研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
	支援員	新規採用者フォローアップ研修	名古屋市	Zoom
7	支援員	虐待防止研修	名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	Zoom
	支援員	精神障害研修	名古屋市社会福祉協議会	東区
	支援員	対人援助技術研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
	サビ管他 2名	虐待防止のためのアンガーマネジメント 研修	愛知県知的障害者福祉協会	Zoom
9	事務員	感染症防止研修	名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	Zoom
10	支援員	感染症対策研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
	管理者	会計基礎研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
11	支援員	強度行動障害者支援者養成研修(基礎)	名古屋市	昭和区
	支援員	権利擁護セミナー	愛知県知的障害者福祉協会	Zoom
	サビ管	障がい者生活支援チーム研修会	愛知県社会福祉士会	Zoom
	サビ管	ICT活用による業務効率化研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
	支援員	スーパービジョン研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom

12	サビ管	サービス管理責任者更新研修	愛知県	Zoom
	支援員	福祉現場と専門職養成をつなぐフォーラム愛知	日本福祉大学	Zoom
1	サビ管	メンタルヘルス研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
	支援員	強度行動障害者支援者養成研修(実践)	社会福祉法人よつ葉の会	西区
	支援員	第58回東海地区知的障害関係施設職員等研究協議会	日本知的障害者福祉協会	Zoom
	支援員	第58回全国知的障害福祉関係職員研究大会(京都大会)	日本知的障害者福祉協会	Zoom
	管理者	障害者虐待防止・権利擁護研修	愛知県	
2	支援員	ソーシャルワーク研修	名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	Zoom
	事務員	SDGs 研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
	事務員	労務管理研修	名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	Zoom

5) 年間行事

実施日	行事名	内容
4月2日(金)	花見	福寿荘のグラウンドでゆったりとすごしながら、花見用の弁当や和菓子を食べた。 (参加利用者 34名)
5月	フットベース交流会	新型コロナウイルスを考慮し中止。
6月18日(金)	はあとカフェ (小グループ社会見学 代替行事)	普段と違う豪華な弁当を食べた後、食堂でメニュー表を見ながら、各自好きなデザートや飲み物を注文し、くつろいだ時間を過ごした。 (参加利用者 33名)
7月8日(木)	クラウンヒロポン 大道芸(夏 のお楽しみ会代替行事)	大道芸人のヒロポンをゲストに招き、食堂にてジャグリングやパントマイムのパフォーマンスを観賞した。お昼は丑の日が近かったのうなぎ弁当を食べ、おやつには水ようかんを食べて夏の味覚を楽しんだ。 (参加利用者 34名)
8月	平針福祉会夏祭り	新型コロナウイルスを考慮し中止。
10月5日(火)	デイキャンプ	はあと平針の駐車場で、災害時の炊き出しを想定し、インスタントラーメンやマシュマロを調理したキャンプメニューを提供した。 (参加利用者 31名)

11月5日(金)	日帰りバス旅行代替行事	昼食は普段と違う豪華な弁当を食べた。外出ができないため、少しでも外の気分を味わえるよう、日本各地のお土産を多種類用意し、利用者が好きな物を選んだ。 (参加利用者 29名)
12月24日(金)	クリスマスランチ会/ ビンゴ大会(交流フェスティバル代替行事)	昼食に豪華なクリスマス弁当とシャンメリーを味わい、午後には職員特製ビンゴゲームやサンタからのクリスマスプレゼントの配布を行った。おやつにはケーキを食べ、帰宅時に1年の思い出としてアルバムを配布した。(参加利用者 34名)
3月9日(水)	お茶会(梅見代替行事)	食堂でお茶会を開催し、茶道家の先生を招いて、本格的なお抹茶を楽しんだ。昼食には農業センターの屋台をイメージした弁当を用意した。(参加利用者 31名)

6) 防火・防災管理

防火対策については、利用者の安全を最優先とし、避難体制と緊急時の役割分担を確認した。併せて利用者自身にも、防災訓練を通して避難方法の知識を伝えることで防災意識の高揚を図った。防災管理年間計画に基づく実施内容は、以下の通りである。

実施事項		内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> 消防用設備点検 備蓄非常食品や備品の点検 防災会議 	<ul style="list-style-type: none"> 業者による定期(総合)点検 非常食品及び備品の点検、整理を実施<係が実施> 年間計画、AED・消火器の設置場所、緊急時対応個人カード、備蓄食品などの確認<職員を対象>
5月	<ul style="list-style-type: none"> 防災避難訓練(地震想定) 	<ul style="list-style-type: none"> 震度6強規模の地震が発生したと想定 「利用者の身を守る」を最優先とし、作業室毎に対応行動訓練を実施、その他職員の任務について確認<利用者及び職員を対象>
7月	<ul style="list-style-type: none"> 防火避難訓練(火災想定) 自主点検 	<ul style="list-style-type: none"> 出火を想定した防火対応避難訓練(事前周知無し) 通報(動作のみ)・伝達・初期消火・避難誘導・情報収集等の訓練を実施<利用者及び職員を対象> 自主点検表に基づき、係が実施。
8月	<ul style="list-style-type: none"> 建物自主点検(敷地内を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 建物に異常がないか確認を行った。

9月	・防災避難訓練 (地震想定) ・非常持ち出し訓練	・5月と同じ訓練を時間帯を変えて実施 ・担当職員は、重要なデータの持ち出し訓練を行った。
	・情報伝達訓練	・緊急事態宣言が発令中のため、中止となった。
	・防災対策会議	・防災に関わる事項について確認を行った。 災害時の事業所の対応について話し合い、確認を行なった。〈職員を対象〉
10月	・非常食の点検・補充	・係が点検・補充等を実施
	・消防用設備点検	・業者による定期(機器)点検
11月	・防火総合訓練	・消防署職員立会いの下、7月と同じ訓練を事前周知ありで実施
	・消火器取り扱い訓練	・避難訓練終了後に消防署職員の指導により、消火器の取り扱い訓練を実施 〈利用者及び職員を対象〉
1月	・防火避難訓練 (火災想定)	・7月と同じ訓練を時間帯を変えて実施
2月	・自主点検	・自主点検表に基づき、係が実施

7) 健康管理

利用者の健康保持に留意し、月に一度、看護師による血圧測定・体重測定を実施した。また、年に2回簡易尿検査(6月・11月)を行なった。嘱託医(和合病院)による年2回の内科検診は、新型コロナウイルスを考慮し6月は中止したが、11月は嘱託医の来所により実施した。

3. 支援概要

利用者の人権と個性を尊重し、各利用者の障がい程度や特性に応じた支援および援助を行うことで、地域社会における社会的自立を目指した。そのために利用者のニーズを受けて支援計画(個別支援プログラム)を作成し、様々な活動を通して、ADL(日常生活動作)能力の維持・向上を図り、生活リズムを確保するとともにやりがいと楽しみが持てるように支援した。新型コロナウイルス対策として、密集を防ぐため、引き続き、活動の分散化を徹底した。

1) 日課

8:30	9:00～ 9:30	9:30～ 10:30	10:45～ 12:00	12:00～ 13:00	13:00～ 14:15	14:30～ 15:30	15:30～ 16:00
職員朝礼	朝ラジ のオ 会体 操	活 (休 ① 憩)	活 ②	昼 (休 食 憩)	活 (休 ③ 憩)	活 ④	清 掃 の 会

2) 各種活動支援

以下に挙げる各種活動を利用者個々が選択し、週間プログラムとして実施することで、一人ひとりの趣味趣向を確認し、持っている社会生活能力等を引き出すことをめざした。様々な活動を通じて、多角的に利用者個々を見つめることで多くの発見があった。それを踏まえて情報交換することで、各家庭との連携もより密に取ることができた。

○音楽活動

カラオケ・音楽鑑賞を行った。曲は様々なジャンルや年代から選び、利用者個々が好きな音楽を見つけ、音楽に合わせて歌を歌ったり、手拍子でリズムをとったりする等、それぞれの形で楽しさを表現できた。

○創作活動

自由画、折り紙、塗り絵、パズル、ブロック、学習プリントなどから、一人ひとり好きなものを選んで取り組んだ。それぞれが好きなものを好きなペースで取り組むことで、ゆったりとした雰囲気の中で活動をおこなうことができていた。また、今年度も外部講師を招いての「パンフラワー」に取り組んだ。概ね週に1回のペースで、5～6回程度の回数を重ねて、個々に作品を作り上げ、年間で8つの作品を作成した。

○園芸活動

季節の野菜や花を植えて、日々の水やり、土の入れ替え、追肥、収穫などを行った。また、花の寄せ植えも行なった。活動を通して植物を育てることへの興味が湧き、楽しみにしている様子も見られた。

○クッキング活動

調理工程を説明し、それぞれが取り組みたい工程に参加した。調理だけでなく、食材や食器の準備、洗い物にも率先して取り組む姿が見られた。調理後は皆で食事を楽しみ、味の感想や次は何を作りたいかなど話し合う時間を設けた。

○ドライブ活動

公用車を使用し、1時間程度の時間をかけて、いろいろな場所の風景を見に行った。行先は利用者の希望を取り入れ、毎回コースを変えながら取り組んだ。道中では会話や音楽、景色を楽しみながら、のんびりと過ごせている様子が伺えた。

○ウォーキング活動

健康維持の為、小グループによるウォーキングを行った。利用者のペースに合わせて歩いた。周りの状況を確認し、トラブルにならないよう取り組んだ。夏季は、お茶を用意することで脱水症状にならないように配慮した。各利用者、楽しんでウォーキングに参加することができていた。

○軽スポーツ活動

ダンス・ボール遊び・ストレッチ等、楽しく簡単に体を動かすことを中心に取り組

んだ。グループによっては公用車を利用して近くの公園に行き、サッカーやウォーキング等を行い、活動に飽きないよう配慮した。月2回、外部講師を招いて、ストレッチなどを中心に指導を受けた。運動を楽しめるように各利用者のペースや能力に合わせて、取り組む内容を工夫した。活動の際に丁寧に説明を行うことで活動への理解が深まるよう努めた。

○生産活動

従来の生産性重視の作業活動から機能訓練等に視点を移した作業活動にすることを目的としている。その上で個々の個別支援計画に反映させ、利用者自身が積極的に取り組めるよう支援した。具体的には、作業活動の分析と作業工程の見直しを常に行いながら、個々の作業適性に応じた作業種を提供し、更により作業しやすい環境設定に努め、作業能力の維持・向上をめざした。達成感を感じてもらうことで、働くことへの意欲も高めることができた。

※ 平均工賃・・・2,035円/月（前年度 2,417円/月）

・箸の袋詰め作業

(株)美濃屋から箸作業を受注した。コロナの影響で、1回の受注量が3,000本と少量の時期が続いた後に、9月以降は発注がなくなり、一旦取引が終了した。

・ガス部品組付け作業

エフワイ成型(株)から受注した、シャフトの金具付け、バネ付け点検、箱詰め作業を中心に取り組んだ。受注量は週に2,000~5,000個程度であった。週により作業量の増減はあったが、年間通して安定した作業量を確保できた。

・ゴミ袋セット(粗品)作り作業

近隣の諸団体(学区の連絡協議会など)から注文をいただいた。コロナ禍の影響もあってか受注数がやや減少傾向にあったが、それでも安定して受注をいただいた。先方と調整しながらラベルを作成し、利用者はゴミ袋を折ったり、束ねたりする工程、「クリスタルパック」への袋入れ工程等に参加した。

・自動車部品作業

ヤマテックからプラスチックの作業を受注した。コロナの影響も少なく、安定した量の受注があった。毎日の納品と受注がある中で、利用者・支援員で取り組むことにより、多くの人に関わることができた。作業種や作業量について、取引先との調整を密に行いながら、利用者への定着を図った。

○その他

毎月の工賃支給日の午後にお菓子・ジュース等を全員で飲食しながら、日々の労をねぎらうティータイムを行った。会の準備・片付けは、利用者も交えながら行った。また、今年度のティータイムは、8月にかき氷会、12月に焼き芋会、2月に豚汁会を開き、活動参加意欲の更なる向上にもつなげていくことができた。

4. その他の諸活動について

1) 事業所体験・相談援助実習・教育実習・施設見学の受け入れ

① 事業所体験実習

在宅または就学中の障がい者を対象に、学校卒業後の日中の過ごし方について体験する機会を提供した。実習期間を2日～5日に設定し、より正確な実習報告書を作成することで、今後の日中生活支援の参考資料とした。

天白養護学校	2名	男性 2名	女性 0名
--------	----	-------	-------

② 相談援助実習

大学や専門学校等で「社会福祉士」の資格取得のために、ソーシャルワークの価値・知識・技術について、学生自身が、講義やスクーリング学習を統合化し、実践力を身につける機会として、現場実習を行った。

日本福祉大学中央福祉専門学校	2名	ソーシャルワーク実習
日本福祉大学	4名	ソーシャルワーク実習

③ 教育実習

愛知教育大学の教員免許特例法による介護等体験や平針中学校の生涯学習教育等については、昨年度同様に新型コロナウイルスの影響もあり、今年度も実施されなかった。

④ 施設見学

障がい者本人をはじめ、当事業所を見学希望される方を積極的に受け入れた。限られた時間ながらも、地域の様々な立場の人たちが障がい者福祉の分野に関心を持ち、地域社会における施設の役割を理解いただく機会を提供できた。

(当事者本人)

港養護学校	1名	男性 0名	女性 1名
植田中学校	1名	男性 1名	女性 0名

(保護者)

天白養護学校	2名	男性 1名	女性 1名
港養護学校	1名	男性 0名	女性 1名
植田中学校	1名	男性 0名	女性 1名

2) ボランティアの受け入れ

利用者の幅広い対人関係の育成と、余暇・生産活動の充実をねらいとしたボランティアの要請及び受け入れを毎年行っていたが、今年度は新型コロナウイルスを考慮して受け入れを中止した。

3) 広報活動

法人ホームページや生活介護事業所の紹介パンフレットの作成を通じて、地域社会に広く当事業所の理念を伝えていくことをめざした。また、ふれ愛ネット天白や天白区障害者自立支援協議会等、地域住民や福祉関連団体との交流の場にも積極的に参加し、地域におけるネットワーク作りに取り組み、更に交流の輪を広げることができた。

また、季刊報「はあと通信」を年4回発刊し、利用者をはじめとして、当事業所と協力関係にある学校、福祉事業所、作業関連の事業所などに配布し、広報活動を推し進めた。当事業所における生活介護事業所としての取り組み、行事・活動内容を中心に構成し、わかりやすい紙面作りに努めた。また、利用者の健康管理や防災関連の情報提供の場としても機能させるようにした。

5. 利用者状況

1) 入退所（定員 40 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
利用者数 (月末)	37	37	37	37	37	36	36	36	36	36	36	36
利用実績	31.7	31.2	31.3	31.0	31.3	30.0	29.3	30.3	30.0	30.9	30.3	30.4

* 利用実績の年間平均出席人数は、30.7名である。

* 開所日数：240日 利用率：83.9%である。

* 利用実績、年間平均出席人数及び利用率は小数点第2位以下切り上げ

2) 年齢別

(令和4年3月31日現在)

年齢 性別	年齢									計	平均年齢
	~20	21~ 25	26~ 30	31~ 35	36~ 40	41~ 45	46~ 50	51~			
男性	4	3	1	1	6	5	4	2	26	36.7	
女性	0	3	2	0	1	0	1	3	10	41.6	
計	4	6	3	1	7	5	5	5	36	39.1	

* 最高年齢は81歳（女性）、最低年齢は19歳（男性）である。

3) 障がい別 ※ 36名中、重複障がい者は26名。

(令和4年3月31日現在)

障がい 性別	知的障がい	ダウン症	自閉症	てんかん	その他
男性	26	2	14	6	5
女性	10	0	2	1	2
計	36	2	16	7	7

4) 通所期間別

(令和4年3月31日現在)

期間 性別	1年未満	1～3年 未満	3～5年 未満	5～7年 未満	7～10年 未満	10年以上	計
男性	1	4	3	3	3	12	26
女性	0	0	0	6	2	2	10
計	1	4	3	9	5	14	36

※入所平均期間は11.9年、最長期間は29年である。

5) 障害支援区分別

(令和4年3月31日現在)

区分 性別	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分なし	計
男性	0	3	7	6	10	0	26
女性	0	2	3	4	1	0	10
計	0	5	10	10	11	0	36